日本史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本古代・中世史特論Ⅰ	日本古代史の研究と方法（1）	2	堀　裕	前期 金曜日 2講時	
日本古代・中世史特論Ⅱ	東北における中世史研究の軌跡	2	柳原　敏昭	後期 月曜日 5講時	
日本近世・近代史特論Ⅰ	近世社会の研究	2	籠橋　俊光	後期 金曜日 2講時	
日本近世・近代史特論Ⅱ	近現代史における日本とアジア	2	安達　宏昭	前期 水曜日 2講時	
日本史特論Ⅰ	古代東アジアの都城と地域拠点	2	吉田　歓	後期集中 その他 連講	
史料学Ⅰ	中世古文書読解	2	柳原　敏昭	前期 火曜日 3講時	
史料学Ⅱ	近世古文書読解	2	籠橋　俊光	後期 水曜日 4講時	
アーカイブズ学特論	歴史研究とアーカイブズ学	2	加藤　諭	後期 木曜日 2講時	
記録遺産保全学特論	地域の歴史資料の保全と継承を考える	2	佐藤　大介	後期集中 その他 連講	
日本古代・中世史研究演習Ⅰ	古代史料の研究（2）	2	堀　裕	前期 火曜日 2講時	
日本古代・中世史研究演習Ⅱ	古代史料の研究（2）	2	永田　英明	後期 火曜日 2講時	
日本古代・中世史研究演習Ⅲ	日本中世史の研究（1）	2	柳原　敏昭	前期 月曜日 4講時	
日本古代・中世史研究演習Ⅳ	日本中世史の研究（2）	2	柳原　敏昭	後期 月曜日 4講時	
日本近世・近代史研究演習Ⅰ	近世史研究法（1）	2	籠橋　俊光	前期 水曜日 5講時	
日本近世・近代史研究演習Ⅱ	近世史研究法（2）	2	籠橋　俊光	後期 水曜日 5講時	
日本近世・近代史研究演習Ⅲ	近現代史研究法（1）	2	安達　宏昭	前期 火曜日 5講時	
日本近世・近代史研究演習Ⅳ	近現代史研究法（2）	2	安達　宏昭	後期 火曜日 5講時	
史料管理学Ⅰ	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋　俊光	前期 金曜日 4講時 前期 金曜日 5講時	
史料管理学Ⅱ	史料整理実習	2	籠橋　俊光	後期 金曜日 4講時 後期 金曜日 5講時	

科目名：日本古代・中世史特論Ⅰ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 ２講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：堀　裕

コード：LM15203,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS601J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：日本古代史の研究と方法（１）

２．Course Title（授業題目）：Research and method of Japanese ancient history

３．授業の目的と概要：日本古代史に関する講義を行う。テーマは、おもに東アジア諸国における６～９世紀の仏教受容形態を踏まえ、仏教から見た日本古代の特色を明らかにすることにある。内容は、①中国南北朝時代と百済・倭の比較　②奈良時代の日本の仏教の特色　③平安初期における空海と仏教をとりあげる予定である。いずれも政治史や「王権」を視野に入れて議論をしたい。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read reports of ancient Japanese history. Sutudens are required to prepare for the assigned part of the designated handouts.　References(handouts) are provided.

５．学習の到達目標：日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading　reports of ancient Japanese history. Students can deepen their understanding of the ancient Japanese history.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古代史講義１　8 世紀の仏教
3. 古代史講義２　8 世紀の仏教
4. 古代史講義３　８世紀の仏教
5. 古代史講義４　9 世紀の仏教
6. 古代史講義５　9 世紀の仏教
7. 古代史講義６　9 世紀の仏教
8. 古代史講義７　9 世紀の仏教
9. 古代史講義８　9 世紀の仏教
10. 古代史講義９　6～7 世紀の仏教
11. 古代史講義 10　6～7 世紀の仏教
12. 古代史講義 11　6～7 世紀の仏教
13. 古代史講義 12　6～7 世紀の仏教
14. 古代史講義 13　6～7 世紀の仏教
15. まとめ

８．成績評価方法：

出席（３０％）・レポート（７０％）

９．教科書および参考書：

プリント随時配布

１０．授業時間外学習：関連する論文や史料を読み理解を深めること。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：日本古代・中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 月曜日 ５講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：柳原　敏昭

コード：LM21501,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS602J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：東北における中世史研究の軌跡

２．Course Title（授業題目）：Tracing the Trajectory of Medieval Historical Research in the Tohoku Region

３．授業の目的と概要：　本年、東北大学大学院文学研究科日本史研究室は、創立 100 周年を迎える。これを機に、中世史を中心として研究室および関係者の研究活動を振り返り、その特徴と意義を確認するとともに、今後の展望について考えてみたい。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This year marks the 100th anniversary of the founding of the Japanese History Laboratory, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University. On this occasion, we would like to take this opportunity to review the research activities of the laboratory and related personnel, with a focus on medieval history, to confirm its characteristics and significance, and to consider its future prospects.

５．学習の到達目標：1. 個人資料に基づいた史学史研究の新しい手法を理解する。
2. 日本史学史上の東北大学大学院文学研究科日本史研究室の位置づけについて理解する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：1. To understand new methods of historical research based on personal documents.

2. To understand the position of the Japanese History Laboratory, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University in the history of Japanese history.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに
2. 東北大学日本史研究室の創設
3. 喜田貞吉と奥羽史料調査部の活動
4. 奥羽史料調査部と古文書の収集
5. 戦前期の地方学会
6. 社会経済史学会東北部会の活動
7. 大島正隆―東北中世史の開拓者―
8. 大島正隆の民俗学研究
9. 秋田家史料の搬入
10. 大島正隆による秋田家史料の整理と研究
11. 大島正隆の奥州留守氏研究
12. 大島正隆の中近世移行期研究
13. 戦後の再出発と豊田武の赴任
14.『中世奥羽の世界』の刊行とその意義
15. まとめ

８．成績評価方法：

リポート［６０％］・出席［２０％］・その他（授業中における発表の内容、議論への関与度）［２０％］

９．教科書および参考書：

特になし。
None in particular

１０．授業時間外学習：毎回、参考文献を紹介するので、各自が適宜それを読む。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：日本近世・近代史特論Ⅰ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期 金曜日 ２講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：籠橋　俊光

コード：LM25202,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS603J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：近世社会の研究

２．Course Title（授業題目）：Research in Early Modern Society

３．授業の目的と概要：　日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。　必要に応じ、学外の見学なども実施する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students can deepen their understanding of early modern Japanese society. Students are required to read the designated essays for each class. Positive participation in classes is expected.

５．学習の到達目標：（１）近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
（２）報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identeify a research issue.

７．授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、感染状況等により変更の可能性がある。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論(1)
3. 受講者による報告と討論(2)
4. 受講者による報告と討論(3)
5. 受講者による報告と討論(4)
6. 受講者による報告と討論(5)
7. 受講者による報告と討論(6)
8. 受講者による報告と討論(7)
9. 受講者による報告と討論(8)
10. 受講者による報告と討論(9)
11. 受講者による報告と討論(10)
12. 受講者による報告と討論(11)
13. 受講者による報告と討論(12)
14. 受講者による報告と討論(13)
15. 全体のまとめ

８．成績評価方法：

（○）出席［20%］　（○）レポート［40%］　（○）その他（報告の内容・討論への取り組みなど）［40%］

９．教科書および参考書：

講義中に指示する。

１０．授業時間外学習：予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

オフィスアワー　火曜日　16：20～17：50　（要予約）

科目名：日本近世・近代史特論Ⅱ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Lecture)II

曜日・講時：前期 水曜日 ２講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：安達　宏昭

コード：LM13202,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS604J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：近現代史における日本とアジア

２．Course Title（授業題目）：Japan and Asia in Modern History

３．授業の目的と概要：近現代日本とアジアの関係は、世界の中での日本の位置や抱えていた課題を示すものであった。本講義では、その関係を通して見える日本国内の政治経済構造の特質や、国際政治上の位置について考察することを目指す。具体的には、「大東亜共栄圏」と言われた戦時期の経済ブロック構想の内実とその実態について、それ以前・以後の歴史もふまえて考察する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The relationship between modern Japan and Asia shows Japan's position in the world and the issues it faced. This lecture aims to understand the characteristics of Japan's domestic political and economic structure and its position in international politics that can be seen through this relationship. Specifically, lectures will be given on the realities of the wartime economic bloc concept called the Greater East Asia Co-Prosperity Sphere, based on the historical background.

５．学習の到達目標：(1) 近現代日本とアジアの関係について基礎的な事実を把握して理解できるようになる。
(2) 近現代日本の政治経済構想について理解できるようになる。
(3) 近現代における日本の国際社会での位置について理解できるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to grasp and understand the basic facts about modern Japan's relationship with Asia, Japan's political and economic structure, and its position in the international community.

７．授業の内容・方法と進度予定：

第１回　ガイダンス、概要、導入
第２回　近代日本とアジア (1)
第３回　近代日本とアジア (2)
第４回　「大東亜共栄圏」構想への道のり (1)
第５回　「大東亜共栄圏」構想への道のり (2)
第６回　「大東亜共栄圏」構想への道のり (3)
第７回　「大東亜共栄圏」構想の内実 (1)
第８回　「大東亜共栄圏」構想の内実 (2)
第９回　「大東亜共栄圏」政策の展開 (1)
第 10 回　「大東亜共栄圏」政策の展開 (2)
第 11 回　「大東亜共栄圏」政策の展開 (3)
第 12 回　「大東亜共栄圏」政策の展開 (4)
第 13 回　戦後の日本とアジア (1)
第 14 回　戦後の日本とアジア (2)
第 15 回　戦後の日本とアジア (3) とまとめ

８．成績評価方法：

期末レポート 60%、出席 20%、ミニッツペーパー20%

９．教科書および参考書：

教科書：安達宏昭『大東亜共栄圏－帝国日本のアジア支配構想－』中公新書、2022 年。
その他、必要に応じて参考文献を紹介する。

１０．授業時間外学習：教科書、配付したプリントを、授業のために予習や復習を行う。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17：50　要予約

科目名：日本史特論Ⅰ／ History in Japan(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：2 学期集中 **単位数：**2

担当教員：吉田　歓

コード：LM98812,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS605J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：古代東アジアの都城と地域拠点

２．Course Title（授業題目）：Research on ancient East Asian capitals and regional hubs

３．授業の目的と概要：本講義では、古代東アジアの都城と地域拠点の歴史を理解することを目的とする。それらの遺跡を紹介していく。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is to understand the history of capital cities and regional hubs in ancient East Asia. I will introduce those ruins.

５．学習の到達目標：古代の東アジアに展開した都を通して日本の歴史について理解する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the history of Japan through the city that developed in ancient East Asia.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1　ガイダンス
2　中国の都城（先秦から秦漢）
3　中国の都城（魏晋南北朝）
4　中国の都城（隋唐）
5　藤原京の誕生
6　大極殿の誕生
7　平城京の諸問題
8　平安京へ
9　韓半島の都城
10　渤海の都城
11　国府と郡家
12　蝦夷と城柵
13　中国の都城の変質
14　平安京の変質
15　まとめ（中世都市へ）と試験

８．成績評価方法：

出席と参加姿勢 50％、試験 50％

９．教科書および参考書：

プリントなどを配布する。参考文献は、妹尾達彦『長安の都市計画』講談社、木下正史『藤原京』中央公論新社。

１０．授業時間外学習：配布したプリントなどに目を通して辞典などでわからないことを調べておく。講義の内容を見直して理解を深める。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

なし

科目名：史料学Ⅰ／ Archival Science Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 ３講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：柳原　敏昭

コード：LM12303,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS606J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：中世古文書読解

２．Course Title（授業題目）：Study of Medieval Japanese Primary Documents

３．授業の目的と概要：　古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的資料をいう（日記や編纂物、文学作品は古文書には含まれない)。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、鎌倉幕府、室町幕府、戦国大名が発給した文書の原文（写真）を読むことで、中世の文書の基礎的な読解力、語彙力を身につける。また、様式の展開ひいてはその歴史的背景について理解を深める

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Historical materials whose sender and recipient are clearly stated. This is the definition of ancient documents (komonzyo). However, diaries and compilations are excluded. Ancient documents are the most important historical materials for historical research. Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding phots of ooriginal documents of Medieval Japan, Issued by the Kamakura Shogunate, Muromachi Shogunate, Sengoku-daimyo. In this class, you will also learn about the form of the ancient document and their changes including historical backgrounds.

５．学習の到達目標：日本中世文書の読解力を身につけ、様式についての基本的な知識を習得する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding warrior documents of Medieval Japan, and will acquire the basic knowledge of diplomatics.

７．授業の内容・方法と進度予定：

対面のみ

１）ガイダンス①
２）ガイダンス②
３）鎌倉幕府文書　下文
４）鎌倉幕府文書　政所下文
５）鎌倉幕府文書　御教書
６）鎌倉幕府文書　下知状
７）室町幕府文書　御判御教書
８）室町幕府文書　御内書
９）室町幕府文書　奉書系文書
１０）室町幕府文書　命令の下達・施行
１１）軍事関係文書
１２）戦国大名文書①
１３）戦国大名文書②
１４）譲状、起請文など
１５）授業のまとめと試験

８．成績評価方法：

筆記試験［６０％］・出席［２０%］・その他（講義中における発表の内容、講義への参加度）［２０％］

９．教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

１０．授業時間外学習：受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chineses.

科目名：史料学Ⅱ／ Archival Science II

曜日・講時：後期 水曜日 ４講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：籠橋　俊光

コード：LM23404,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS607J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：近世古文書読解

２．Course Title（授業題目）：Reading Early Modern Documents

３．授業の目的と概要：　古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the basics of reading early modern Japanese documents. Sutudens are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class.References(handouts) are provided.

５．学習の到達目標：(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2)近世古文書の読解能力を養う。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic skills to reading early modern documents.

７．授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、感染状況等により変更の可能性がある。

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書（1）将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書（2）将軍発給文書②
6. 武家文書（3）将軍発給文書③
7. 武家文書（4）老中発給文書①
8. 武家文書（5）老中発給文書②
9. 武家文書（6）幕府発給廻状
10. 町方・村方文書（1）定
11. 町方・村方文書（2）人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書（3）年貢関係文書
13. 町方・村方文書（4）商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書（5）家・個人文書
15. 講義のまとめ

８．成績評価方法：

出席[20%]・確認テスト[80%]

９．教科書および参考書：

随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

１０．授業時間外学習：予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解しておく。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。オフィスアワー　火曜日　16:20～17:50（要予約）

科目名：アーカイブズ学特論／

曜日・講時：後期 木曜日 ２講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：加藤　諭

コード：LM24203,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS608J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：歴史研究とアーカイブズ学

２．Course Title（授業題目）：Historical Science　and Archival Science

３．授業の目的と概要：本講義では、主としてアーキビストとして必要な知識を習得し、アーカイブズ学の概要を理解することを目的とする。アーカイブズの成り立ちや役割について国内外の事例から理解を深めるとともに、その保存・管理システムを構築するための学問分野であるアーカイブズ学の理論と体系について学び、様々なアーカイブズのあり方について考察する。またアーカイブズの実務に必要となる、評価選別、目録編成、利用審査、利用普及活動などに関する具体的な方法論について知見を深める。その上で、記録の収集、保存、整理公開、利活用の流れを総合的に理解し、知見を深めることを目的とする。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is mainly to acquire the knowledge necessary for archivists and to understand the outline of archival studies. In addition to deepening the understanding of the origins and roles of archives through case studies from Japan and abroad, students will learn about the theories and systems of archival science, which is an academic field for constructing archival preservation and management systems, and will consider various types of archives. In addition, students will learn about theories and systems of archival science, which is an academic discipline for building archival preservation and management systems. In addition, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the process of collecting, preserving, organizing, disclosing, and utilizing records, and to deepen their knowledge.

５．学習の到達目標：アーカイブズ学の理論と体系について学び、記録の収集、保存、整理公開、利活用のあり方について理解することを目的とする。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to learn about the theory and system of archival studies, and to understand how records should be collected, preserved, organized, released, and utilized.

７．授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス　進め方と目的、評価方法についての説明
2. アーカイブズの理論と原則
3. レコード・マネジメントとアーカイブズ
4. アーキビストの倫理と役割
5. 世界のアーカイブズと歴史
6. 日本のアーカイブズ①（公文書館）
7. 日本のアーカイブズ②（民間アーカイブズ）
8. 日本のアーカイブズ③（大学アーカイブズ）
9. 公文書管理と法制度
10. アーカイブズの技法（評価選別）
11. アーカイブズの技法（目録編成）
12. アーカイブズの技法（利用審査）
13. アーカイブズの現状と課題（利用普及と人材育成）
14. 東北大学史料館見学
15. まとめ

８．成績評価方法：

出席（５０％）・レポート（５０％）

９．教科書および参考書：

レジュメ随時配布

１０．授業時間外学習：配付されたレジュメを復習すること。レポートを作成すること。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：記録遺産保全学特論／

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：2 学期集中 **単位数：**2

担当教員：佐藤　大介

コード：LM98813,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS609J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：地域の歴史資料の保全と継承を考える

２．Course Title（授業題目）：Considering the preservation and succession of local historical materials

３．授業の目的と概要：この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。特に、東日本大震災後の歴史資料レスキュー活動や、目下大きな課題になっている、地域社会に膨大に残されている古文書、民具その他の歴史資料をどのように守っていくのかについて討論や実際の体験を通じて、課題の所在を認識することを目的とします。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn about issues to protect and pass on the vast amount of historical materials that still remain in the local community, as well as how to practice them, through lectures, discussions, and actual community activities. In particular, the purpose of this project is to identify the location of issues through discussion and actual experiences on how to protect the huge amount of old documents, tools and other historical materials left in local communities, which are currently a major issue, as well as the activities to rescue historical materials after the Great East Japan Earthquake.

５．学習の到達目標：・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。

・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：・Based on the history surrounding the preservation of historical materials in the past, you will learn about the issues for inheriting the historical materials left in the local community.

・Through lectures, students gain the ability to think for themsel

７．授業の内容・方法と進度予定：

講義の実施形態　未定

第１日　危機に瀕する地域の史料
1　ガイダンス
2　講義　「歴史資料」とは
3　講義　地域の歴史資料の置かれた現状

第２日　「1.17」の経験、「3. 11」を経て―大災害時の史料レスキュー
4　講義　阪神・淡路大震災での歴史資料レスキュー
5　講義　東日本大震災での歴史資料レスキュー
6　質疑応答

第３日　史料を通じた地域交流
7　講義　史料を通じて地域と向き合う①
8　講義　史料を通じて地域と向き合う②
9　質疑応答

第４日　史料保全の可能性
10　講義　史料保全の可能性①
11　講義　史料保全の可能性②
12　質疑応答

第５日　史料保全を体験する
13　史料保全を体験する①
14　史料保全を体験する②
15　史料保全を体験する③

*講義の内容については変更する事があり得る。

８．成績評価方法：

・平常点（出席、討論への参加）（４０パーセント）
・レポート（６０パーセント）　＊日本語のみとします。

９．教科書および参考書：

・奥村弘『大震災と歴史資料保存』(吉川弘文館　2011 年)
・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』(東北大学東北アジア研究センター報告　2012 年)

・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る　地域歴史資料学の構築』(東京大学出版会　2014 年)
ほか、講義中指示する。

１０．授業時間外学習：・歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、現在日本の 31 組織によって実施されている。それらに参加し、交流を深めることが、本講義の内容を、真に体得するために有用である。
・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

・講義は日本語で行います。　This lecture will be given in Japanese only.

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅰ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 ２講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：堀　裕

コード：LM12204,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS614J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：古代史料の研究（２）

２．Course Title（授業題目）：research of ancient historical materials

３．授業の目的と概要：日本古代史を学ぶための基本史料である『令集解』をとりあげる。九世紀に編纂された養老令の官撰私撰注釈書である。記載された令本文と古代の法律家の注釈を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。これにより、史料の特質を明らかにし、あわせて日本古代の社会や国家の特色を析出する。なお、授業では各回担当者が報告する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read the document of ancient Japanese law. Sutudens are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class.　References(handouts) are provided.

５．学習の到達目標：日本古代の法典である律令に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the law and society of ancient Japanese.

７．授業の内容・方法と進度予定：

対面授業（半分以上）とリアルタイム型オンライン授業の併用

1.
ガイダンス『令集解』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『令集解』を読む（１）

3.
『令集解』を読む（２）

4.
『令集解』を読む（３）

5.
『令集解』を読む（４）

6.
『令集解』を読む（５）

7.
『令集解』を読む（６）

8.
『令集解』を読む（７）

9.
『令集解』を読む（８）

10.
『令集解』を読む（９）

11.
『令集解』を読む（１０）

12.
『令集解』を読む（１１）

13.
『令集解』を読む（１２）

14.
『令集解』を読む（１３）

15.
まとめ

８．成績評価方法：

レポート（50%）報告および討論などでの授業参加（50%）

９．教科書および参考書：

テキスト　新訂増補国史大系普及版『令集解』(吉川弘文館)。

１０．授業時間外学習：史料を事前に読むことおよび復習を行うこと。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 ２講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：永田　英明

コード：LM22202,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS615J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：古代史料の研究（２）

２．Course Title（授業題目）：research of ancient historical materials(2)

３．授業の目的と概要：日本古代の法令集『類聚三代格』の読解を通じて、古代史料の読解能力を養います。授業では各回担当者が報告する。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Ruiju-Sandaikyaku. Sutudens are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class.

５．学習の到達目標：日本古代史に関する研究能力を身につけるとともに、報告・討論の方法を身につける。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students acquire advanced research skills in ancient Japanese history, and It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

７．授業の内容・方法と進度予定：

１）ガイダンス
２）学生による報告と討論
３）学生による報告と討論
４）学生による報告と討論
５）学生による報告と討論
６）学生による報告と討論
７）学生による報告と討論
８）学生による報告と討論
９）学生による報告と討論
１０）学生による報告と討論
１１）学生による報告と討論
１２）学生による報告と討論
１３）学生による報告と討論
１４）学生による報告と討論
１５）授業のまとめ

８．成績評価方法：

レポート（50%）・授業での報告と討論への参加（50%）

９．教科書および参考書：

国史大系本『類聚三代格』前編・後編（吉川弘文館）※必ずしも購入の必要はない。

１０．授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

なし

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)III

曜日・講時：前期 月曜日 ４講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：柳原　敏昭

コード：LM11402,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS616J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：日本中世史の研究 (1)

２．Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History　1

３．授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.

５．学習の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2)報告・討論の方法を身につける。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.
(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.

７．授業の内容・方法と進度予定：

１）ガイダンス
２）学生による報告と討論
３）学生による報告と討論
４）学生による報告と討論
５）学生による報告と討論
６）学生による報告と討論
７）学生による報告と討論
８）学生による報告と討論
９）学生による報告と討論
１０）学生による報告と討論
１１）学生による報告と討論
１２）学生による報告と討論
１３）学生による報告と討論
１４）学生による報告と討論
１５）授業のまとめ

８．成績評価方法：

リポート［４０％］・出席［２０％］・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）［４０％］

９．教科書および参考書：

特になし。
Nothing.

１０．授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。
Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)」は連続履修すること。
Students must take "Study on Japanese Medieval History " 1 and 2 consecutively.

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅳ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 ４講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：柳原　敏昭

コード：LM21402,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS617J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：日本中世史の研究 (2)

２．Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History　2

３．授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.

５．学習の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2)報告・討論の方法を身につける。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.
(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.

７．授業の内容・方法と進度予定：

１）ガイダンス
２）学生による報告と討論
３）学生による報告と討論
４）学生による報告と討論
５）学生による報告と討論
６）学生による報告と討論
７）学生による報告と討論
８）学生による報告と討論
９）学生による報告と討論
１０）学生による報告と討論
１１）学生による報告と討論
１２）学生による報告と討論
１３）学生による報告と討論
１４）学生による報告と討論
１５）授業のまとめ

８．成績評価方法：

リポート［４０％］・出席［２０％］・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）［４０％］

９．教科書および参考書：

特になし。
Nothing.

１０．授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。
Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※〇は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"〇"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)」は連続履修すること。
Students must take "Study on Japanese Medieval History " 1 and 2 consecutively.

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅰ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 ５講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：籠橋　俊光

コード：LM13507,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS618J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：近世史研究法（１）

２．Course Title（授業題目）：Research Methods in Early Modern History (1)

３．授業の目的と概要：　受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。必ず「近世史研究法（２）」と連続で受講すること。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identeify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

５．学習の到達目標：(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identeify a research issue.

７．授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論 (1)
3. 受講者による報告と討論 (2)
4. 受講者による報告と討論 (3)
5. 受講者による報告と討論 (4)
6. 受講者による報告と討論 (5)
7. 受講者による報告と討論 (6)
8. 受講者による報告と討論 (7)
9. 受講者による報告と討論 (8)
10. 受講者による報告と討論 (9)
11. 受講者による報告と討論 (10)
12. 受講者による報告と討論 (11)
13. 受講者による報告と討論 (12)
14. 受講者による報告と討論 (13)
15. 受講者による報告と討論 (14)

８．成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

９．教科書および参考書：

特になし。

１０．授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

必ず「近世史研究法（２）」と連続で受講すること。また、大学院生には学部生の指導的な役割を積極的に担うことを期待する。オフィスアワー　火曜日　16:20～17:50（要予約）。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅱ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 ５講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：籠橋　俊光

コード：LM23506,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS619J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：近世史研究法（２）

２．Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (2)

３．授業の目的と概要：　「近世史研究法（１）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。必ず「近世史研究法（１）」と連続で受講すること。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identeify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

５．学習の到達目標：(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identeify a research issue.

７．授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告・討論(1)
3. 受講者による報告・討論(2)
4. 受講者による報告・討論(3)
5. 受講者による報告・討論(4)
6. 受講者による報告・討論(5)
7. 受講者による報告・討論(6)
8. 受講者による報告・討論(7)
9. 受講者による報告・討論(8)
10. 受講者による報告・討論(9)
11. 受講者による報告・討論(10)
12. 受講者による報告・討論(11)
13. 受講者による報告・討論(12)
14. 受講者による報告・討論(13)
15. 受講者による報告・討論(14)

８．成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

９．教科書および参考書：

特になし。

１０．授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

必ず「近世史研究法（１）」と連続で受講すること。また、大学院生には学部生の指導的な役割を積極的に担うことを期待す

る。オフィスアワー　火曜日　16:20～17:50（要予約）

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅲ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 火曜日 ５講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：安達　宏昭

コード：LM12503,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS620J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：近現代史研究法 (1)

２．Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (1)

３．授業の目的と概要：近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students will study basic research contents in modern history, set their own research themes, and present their interests, viewing angles, and empirical analysis.Then, through discussions, clarify issues regarding the presenter's research methods.This course will be taught in Japanese.

５．学習の到達目標：(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
(2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
(3)上記の２つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.
(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.
(3) Based on the above two points, s

７．授業の内容・方法と進度予定：

１．ガイダンス・日本近現代史研究の意義
２．受講者の研究報告と討論 (1)
３．受講者の研究報告と討論 (2)
４．受講者の研究報告と討論 (3)
５．受講者の研究報告と討論 (4)
６．受講者の研究報告と討論 (5)
７．受講者の研究報告と討論 (6)
８．受講者の研究報告と討論 (7)
９．受講者の研究報告と討論 (8)
10．受講者の研究報告と討論 (9)
11．受講者の研究報告と討論 (10)
12．受講者の研究報告と討論 (11)
13．受講者の研究報告と討論 (12)
14．受講者の研究報告と討論 (13)
15．受講者の研究報告と討論 (14)

８．成績評価方法：

（　）筆記試験［　%］・(○) リポート［40%］・(○) 出席［20%］・(○) その他（発表態度、受講態度）［40%］

９．教科書および参考書：

特になし。

１０．授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約
履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅳ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 ５講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：安達　宏昭

コード：LM22503,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS621J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：近現代史研究法 (2)

２．Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (2)

３．授業の目的と概要：日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the research presentation of the Advanced Seminar on Early Modern and Modern History in JapanⅢ (Method of Studies on Japanese Modern History (1)), students will further research and report the results.
Then, through discussions, students narrow down the issues and summarize them into papers.
Through this, participants deepen their understanding of the contents of Japanese modern historical studies. This course will be taught in Japanese.

５．学習の到達目標：(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
(2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
(3)上記の２つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.
(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.
(3) Based on the above two points, s

７．授業の内容・方法と進度予定：

１．ガイダンス・日本近現代史研究の意義
２．受講者の研究報告と討論 (1)
３．受講者の研究報告と討論 (2)
４．受講者の研究報告と討論 (3)
５．受講者の研究報告と討論 (4)
６．受講者の研究報告と討論 (5)
７．受講者の研究報告と討論 (6)
８．受講者の研究報告と討論 (7)
９．受講者の研究報告と討論 (8)
10．受講者の研究報告と討論 (9)
11．受講者の研究報告と討論 (10)
12．受講者の研究報告と討論 (11)
13．受講者の研究報告と討論 (12)
14．受講者の研究報告と討論 (13)
15．受講者の研究報告と討論 (14)

８．成績評価方法：

（　）筆記試験［　%］・（○）リポート［40%］・（○）出席［20%］・（○）その他（発表態度、受講態度）［40%］

９．教科書および参考書：

特になし。

１０．授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約
履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」（安達担当）は、原則として連続して履修すること

科目名：史料管理学Ⅰ／

曜日・講時：前期 金曜日 ４講時.前期 金曜日 ５講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：籠橋　俊光

コード：LM15407,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS624J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：史料整理・保存の理論と方法

２．Course Title（授業題目）：Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

３．授業の目的と概要：この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。人類共有の文化遺産としての記録史料を後世に伝えるため、史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を理解する必要がある。具体的には、アーカイブズ学の基礎、博物館・図書館との機能の相違、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論等について実践を交えつつ学んでいく。受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるため事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

５．学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

７．授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味（1）
2. 史料保存の意義と意味（2）
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術（1）
9. 目録作成の技術（2）
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎（1）
14. 史料整理の基礎（2）
15. 史料整理の基礎（3）

８．成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

９．教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』(吉川弘文館)。

１０．授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

１２．その他：

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、必ず史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー　火曜日　16:20～17:50（要予約）
主として実践的教育から構成される実務・実践的授業／Practical business

科目名：史料管理学Ⅱ／

曜日・講時：後期 金曜日 ４講時.後期 金曜日 ５講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：籠橋　俊光

コード：LM25408,　**科目ナンバリング：**LJS-HIS625J,　**使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

１．授業題目：史料整理実習
２．Course Title（授業題目）：Practicum in Document Organization
３．授業の目的と概要：　実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので,事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。
４．Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.
５．学習の到達目標：実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。
６．Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop skills needed to handle real Japanese document.
７．授業の内容・方法と進度予定：
本講義は対面で実施するが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス
2. 史料整理実習（1）
3. 史料整理実習（2）
4. 史料整理実習（3）
5. 史料整理実習（4）
6. 史料整理実習（5）
7. 史料整理実習（6）
8. 史料整理実習（7）
9. 史料整理実習（8）
10. 史料整理実習（9）
11. 史料整理実習（10）
12. 史料整理実習（11）
13. 史料整理実習（12）
14. 史料整理実習（13）
15. 史料整理実習（14）・整理内容報告

８．成績評価方法：
出席[30%]・受講態度[70%]
９．教科書および参考書：
各自古文書読解用辞典類を持参すること。
１０．授業時間外学習：前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。
１１．実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
１２．その他：

必ず史料管理学Ⅰ「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。また、受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割を強く期待する。オフィスアワー　火曜日　16:20～17:50（要予約）